

苛原 稔：生殖補助医療により出生した児の長期予後と技術の標準化に関する研究

研究概要：

本研究は、1) すでに確立された生殖補助医療（ART）児の予後調査体制を実地運用し、最新の基礎データを蓄積し、母児の周産期予後、ART 児の長期予後など実質的な調査を進め、わが国での ART 児の予後調査体制を普遍化する。2) また、この体制を利用して出生児の問題点を検討する。3) 加えて、わが国の ART の安全性や効率性に関わる問題や多様な社会制度的・倫理的な問題を検討する資料の収集・分析を行い、これらの問題解決のための意見集約を行うことを目的とする。

これまでの進捗状況・成果

ART 児の予後調査：凍結融解胚移植治療周期数が増加したため、この治療技術を適切に追えるよう、ART 出生児長期予後調査システムに新たな項目を追加して、実地検証を行っている。ART 出生児コホートの 3 歳から 4 歳時点での身体的発達に関するアンケート集計を行い成長・発達の評価を健常対象と比較した。発達や体重増加は ART 群の方が良いという結果であった。

ART の安全性：ART 出生児で異常が発見された症例の詳細な解析を行い、ART 技術の遺伝的影響・インプリンティングへの影響を解析し、ART では epigenetic な変化は多くないという結果が得られている。ART は 43 歳で終了する提言が出来るような結果は貴重である。

ART の多様な社会制度的・倫理的な問題を検討：タイ国で行われた日本人が関与した代理母の問題について、現地調査を行い、タイでは今後代理母は減少する貴重な情報を得ている。

今後の指針

- ・代理出産を含めた ART について研究班の最後に一般向けのシンポジウムを行うことをお願いしたい。
- ・ART に関して、epigenetic な修飾の検討は極めて大事あるが、大がかりな研究なので、本研究班の終了までにどこまで行うのかをはっきりさせておいたほうが良いと思われる。

・ART 出生児長期予後調査システムと、既存の周産期データ登録システムとの連結をお願いしたい。

